

# 不撓不屈

京都府立洛北高校硬式野球部  
部活動通信：第14号  
発行：MG 今村・西山・吉田  
2020年8月21日

## 野球部 topic1 「洛北旋風巻き起こせ！ vs洛水」

令和2年度夏季京都府高等学校野球ブロック大会が7月11日より開幕しました。

洛北高校は雨の影響で1週間遅れての初戦となりましたが、当日は快晴かつ心地よい気温と天候に恵まれました。

相手は洛水高校。一回表、先頭打者にヒットを許してしまったもののピッチャー上田の好投でテンポ良くアウトを取ることができました。二回裏、二本のヒットを絡め先制点を掴みました。その後、相手のピッチャーが変わり我慢のイニングが続きましたが、六回裏に畠中の四球から繋がり、蛸原のタイムリーヒットが決勝打となり見事1-2で勝利を収めました。

## 野球部 topic2 「感謝お届け！シャークダンス！ vs山城」

7月26日(日)太陽が丘野球場で3回戦が行われ、山城高校と戦いました。山城高校とは、昨秋の四校対抗でサヨナラ負けをし、悔しい思いをしました。

この試合から始めた巨人のパーラ選手の「シャークダンス」には「感謝の気持ちを込めて全力で野球を楽しみ、全員で繋ぐ。」という思いが込められています。洛北のベンチではグラウンドにいる選手への鼓舞の声や得点への喜びの声が絶えることはありませんでした。中には、「あいつにヒット打たせるための声掛けよう！」と全員で得点を奪いに行く声もありました。出塁したりヒットが出たりすると、ベンチやスタンドからシャークダンスが飛び交い、終始一体感が生まれていました。

三回表、洛北の攻撃では鹿島の中越二塁打とツーアウトフルカウントから出た福島、渾身の一打により3点を先制し、そのまま逃げ切りました。この試合では今まで以上に全員野球を意識でき、大きく成長できたと思います。



## 野球部 topic3 「合い言葉は”校歌熱唱”」

洛北の野球部が口を揃えて言うのは、「勝って校歌を歌いたい」という言葉です。なぜこんなにも「校歌」という言葉がチームを団結させているのか。それは、洛北高校野球部には「校歌プロジェクト」というものがあるからです。

これは2019年の春から始まったもので、毎日18時に校内に流れる校歌に合わせて全員で熱唱しています。一昨年度、昨年度と夏の大会では初戦敗退に終わっており、三年生は「このまま校歌を歌わずに引退できるか！」と校歌を歌うことにこだわりを持ってこれまで取り組んできました。毎日欠かさず歌い続けた校歌。気付けば洛北高校野球部を語るには欠かせないものとなっています。

そんな校歌が球場全体に響き渡った洛水戦、山城戦では「この瞬間のために校歌を歌ってきたんだ！」と胸が熱くなりました。今大会は校歌を歌うことはできませんでしたが、心の中では反り返るくらいの大声で熱唱できました。



## 野球部 topic4 「Fゾーン決勝戦 vs北嵯峨」

8月2日(日)あやべ球場でFゾーンの決勝戦が行われ、北嵯峨高校と対戦しました。相手に関係無く、洛北らしく最後まで楽しんで戦うことをテーマに、ボールの見極めを大事にして、次のバッターに繋ぐことを意識して挑みました。

四回までは、相手を一点に抑え、攻撃では何度かチャンスが生まれたもののあと一本が出ず、そのまま四点を追加され、0-5で試合終了となりました。

このチームで優勝したかったという思いから、涙を流した部員も多くいました。そして先輩からは新チームの糧となることを多く学びました。この悔しさを胸に、新チームも全力疾走していきます。本当に応援ありがとうございました。